Japan Heart連携プロジェクト報告

～教育支援で変わる現場、育つ力

～カンボジア・Japan Heart医療センター手術室看護師へのOJT実践報告～

日本手術看護学会 & NGO ジャパンハート:ミルズしげ子　後藤紀久　木村三香　山本千恵　小鯖貴子　藤井祐美子
ワーキンググループメンバー: 原健太朗　河合桃代　佐藤明日美　中村裕美

プロジェクトの目的

◆周術期看護の学術的または教育的支援

当学会の使命にある「手術看護専門領域を担う看護師の人材育成を推進する」に基づき、人材育成のための教育的支援を行う。

◆国際・国内関係学術団体等との連携および提携

当学会の事業内容にある活動として、今年度は、ジャパンハートと連携を取り、周術期患者への質の高い看護の提供を目指す。

◆国際貢献

ジャパンハートとの連携プロジェクトをもとに、周術期看護分野での国際医療貢献を目指す。

日本手術看護学会
ミルズ理事長

ジャパンハート
吉岡最高顧問

ジャパンハートと日本手術看護学会は協定を締結しました

カンボジア・ジャパンハート アジア小児医療センター・ウドン医療センター視察

◆2025年度の視察

2026年2月22日（日）～2月24日（火）の
カンボジア・ジャパンハートアジア小児医療センター、ウドン医療センターの視察は、以下のQRコードにアクセスすると、日本手術看護学会の公式ブログで詳細を見ることができます！

左から神白先生、中村、吉岡代表、佐藤、小鯖

1日目

新病院のこども医療センターのエントランスです。
オープンスペースの芝生の上に子供たちがいます。
辛い入院生活を、少しでも快適にする工夫がありました。

2日目

カンボジアでの手術の様子。
滅菌ガウンは何度も滅菌して、使用を繰り返しているので変色して縮んでいます。
敗れたところや取れたひもは、縫い直して再利用。限られた資源で、最善の医療が提供できるように工夫しています。

3日目

日本から持参した体圧モニターを使い、OJTを実施しました。通常実施している体位固定が適切か検討している様子です。体圧が可視化されて体位固定の評価がわかりやすい！すごい！と感動していました。

教育支援活動

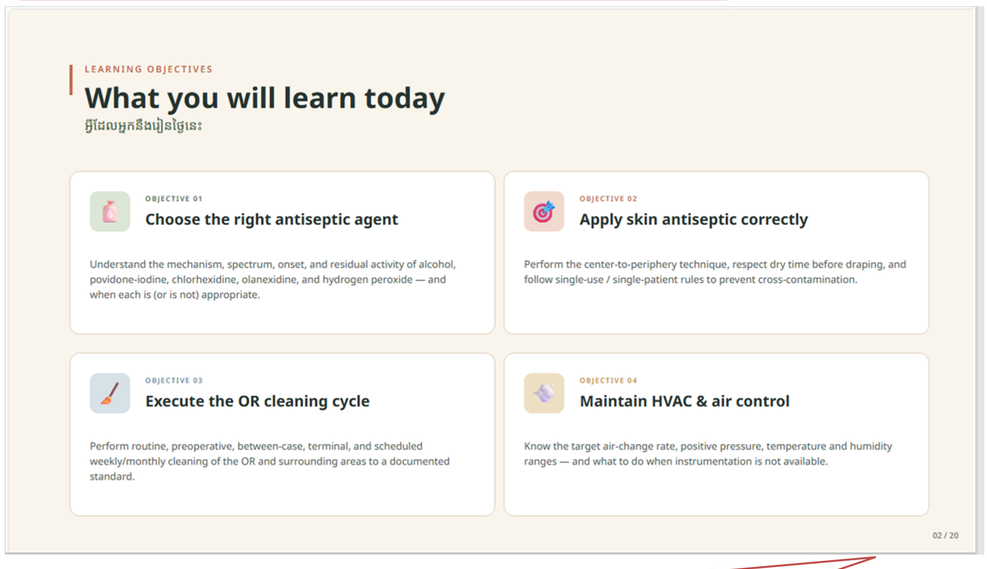
＊セミナーで使用したスライドの一部をご紹介します

◆カンボジア看護師への周術期看護の教育支援
ZOOMによるオンラインセミナー

第5回セミナー:2026/8/25（10:30～11:40）
テーマ:【手術部位の皮膚消毒】
【手術室の環境整備と清掃】

ZOOMの画面です。

学会の指名理事で感染管理認定看護師の渋谷豊克先生が講義を担当しました。
通訳をジャパンハートの小鯖貴子さんが担当しました。
英語とクメール語で資料を作成していただき、カンボジアのの手術室看護師にもわかりやすいと好評でした。



カンボジアの成人患者を対象としたウドン医療センターとプノンペンにある小児医療センターの2つの病院と、日本のメンバーとをインターネットで結んで講義を行いました。
質疑では、
「皮膚消毒では100%細菌をなくすことはできませんが、どのようにすればよいでしょうか。」
「痔の手術の時の肛門周囲の消毒はどのようにしたらよいでしょうか？」
など、多くの質問がありました。日ごろの実践を振り返りながら、講義内容を今後に活かすにはどうすればよいか、活発な意見交換ができました。

講義終了後、みんなでと記念撮影！

12月に第6回のセミナーを予定しています。
企画の内容は、カンボジアの手術室看護師の要望が高かった「周術期低体温予防（体温管理）」です。
カンボジアの手術室看護師の自己研鑽を自立して実践できるように支援していきます。

ジャパンハート連携プロジェクト報告＠日本手術看護学会年次大会
11月22日9:00～第6会場
皆様のご参加をお待ちしています！